

第4章 三角関数

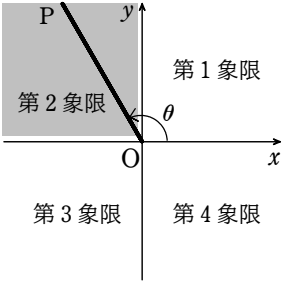
2.1 角の拡張

① 一般角

- 1 動径の表す角（度数法）
動径 OP と始線 OX のなす角の1つを α とすると、動径 OP の表す角は $\alpha + 360^\circ \times n$ (n は整数)

2 象限と一般角

点 O を原点とする座標平面上では、 x 軸の正の部分が始線 OX にとって、一般角 θ を考える。たとえば、右の図のような θ について、 θ の動径は第2象限にあるという。なお、動径 OP が座標軸上にあるときは、どの象限にあるともいわない。



② 弧度法

- 1 1 ラジアン $= \left(\frac{180}{\pi}\right)^\circ$, $1^\circ = \frac{\pi}{180}$ ラジアン, π ラジアン $= 180^\circ$

☞ 弧度法では、単位のラジアンを省略するのがふつうである。

2 動径の表す角（弧度法）

動径 OP と始線 OX のなす角の1つを α とすると、動径 OP の表す角は $\alpha + 2n\pi$ (n は整数)

3 扇形の弧の長さや面積

半径 r , 中心角 θ (ラジアン) の扇形の弧の長さ l , 面積 S は

$$l = r\theta, \quad S = \frac{1}{2}r^2\theta \quad \text{または} \quad S = \frac{1}{2}lr$$

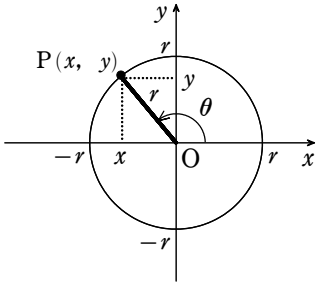
☞ 角の単位はラジアンを用いる。

2.2 三角関数

① 三角関数

一般角 θ の動径と、原点を中心とする半径 r の円との交点を $P(x, y)$ とすると

$$\sin \theta = \frac{y}{r}, \quad \cos \theta = \frac{x}{r}, \quad \tan \theta = \frac{y}{x}$$



② 三角関数の値の範囲

$-1 \leq \sin \theta \leq 1, -1 \leq \cos \theta \leq 1,$
 $\tan \theta$ の値の範囲は実数全体

③ 三角関数の相互関係

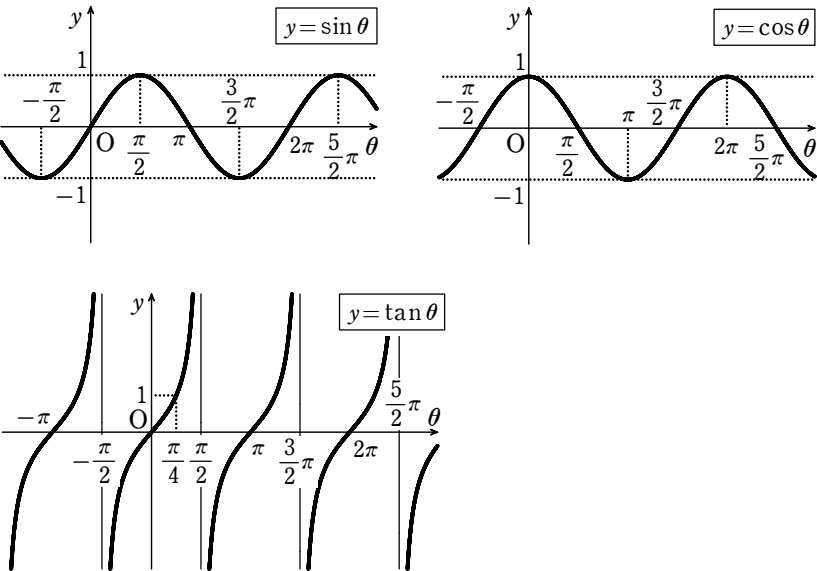
- 1 $\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}$
2 $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$
3 $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$

2.3 三角関数のグラフ、三角関数の性質

① 三角関数のグラフ

$y = \sin \theta$ 周期は 2π , 原点に関して対称
 $y = \cos \theta$ 周期は 2π , y 軸に関して対称

$y = \tan \theta$ 周期は π , 原点に関して対称, 直線 $\theta = \frac{\pi}{2} + n\pi$ (n は整数) を漸近線にもつ



② いろいろな三角関数のグラフ

k を正の定数とする。

$y = k \sin \theta$ $y = \sin \theta$ のグラフを、 θ 軸をもとにして y 軸方向へ k 倍したもの。

$y = \sin(\theta - \alpha)$ $y = \sin \theta$ のグラフを、 θ 軸方向に α だけ平行移動したもの。

$y = \sin k\theta$ $y = \sin \theta$ のグラフを、 y 軸をもとにして θ 軸方向へ $\frac{1}{k}$ 倍したもの。

$y = \sin k\theta, y = \cos k\theta$ の周期は $\frac{2\pi}{k}$, $y = \tan k\theta$ の周期は $\frac{\pi}{k}$ である。

③ 三角関数で成り立つ等式

- 1 n を整数とすると
 $\sin(\theta + 2n\pi) = \sin \theta, \cos(\theta + 2n\pi) = \cos \theta, \tan(\theta + n\pi) = \tan \theta$
2 $\sin(-\theta) = -\sin \theta, \cos(-\theta) = \cos \theta, \tan(-\theta) = -\tan \theta$

☞ グラフの対称性

一般に、関数 $y = f(x)$ について

[1] 常に $f(-x) = -f(x)$ である \iff グラフは原点に関して対称

[2] 常に $f(-x) = f(x)$ である \iff グラフは y 軸に関して対称

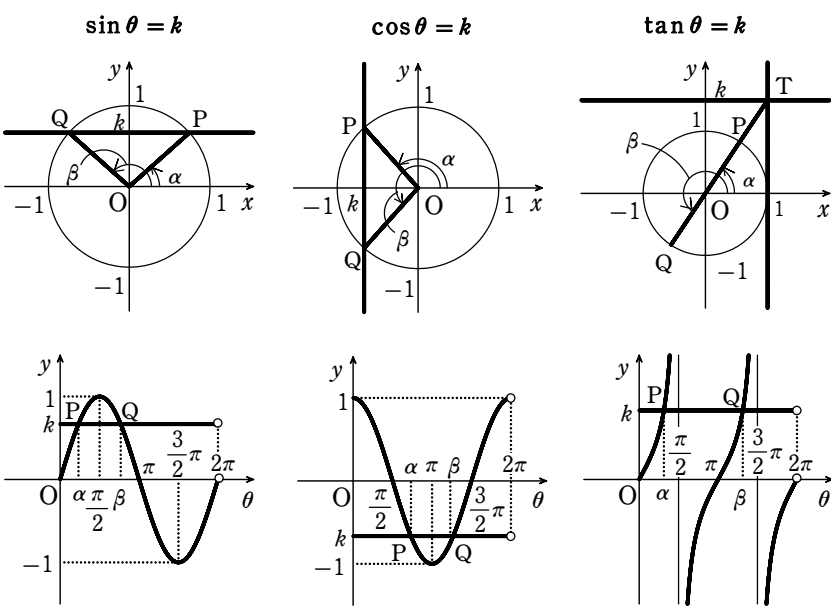
[1] の関数 $f(x)$ は 奇関数, [2] の関数 $f(x)$ は 偶関数 であるという。

- 3 $\sin(\theta + \pi) = -\sin \theta, \cos(\theta + \pi) = -\cos \theta, \tan(\theta + \pi) = \tan \theta$
4 $\sin\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = \cos \theta, \cos\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = -\sin \theta, \tan\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = -\frac{1}{\tan \theta}$
5 $\sin(\pi - \theta) = \sin \theta, \cos(\pi - \theta) = -\cos \theta, \tan(\pi - \theta) = -\tan \theta$
6 $\sin\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \cos \theta, \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \sin \theta, \tan\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \frac{1}{\tan \theta}$

2.4 三角関数の応用

① 三角関数を含む方程式、不等式

三角関数を含む方程式、不等式は、単位円やグラフを利用して解く。



② 三角関数を含む関数の最大値、最小値

- 1 三角関数を t で置き換え、 t の関数とみて、最大値、最小値を求める。
2 $\sin \theta = t, \cos \theta = t$ など置き換えたときは、 θ の範囲に注意して、 t のとりうる値の範囲を考える。

2 5 加法定理

[1] 正弦・余弦の加法定理

- 1 $\sin(\alpha + \beta) = \sin\alpha \cos\beta + \cos\alpha \sin\beta$
- 2 $\sin(\alpha - \beta) = \sin\alpha \cos\beta - \cos\alpha \sin\beta$
- 3 $\cos(\alpha + \beta) = \cos\alpha \cos\beta - \sin\alpha \sin\beta$
- 4 $\cos(\alpha - \beta) = \cos\alpha \cos\beta + \sin\alpha \sin\beta$

[2] 正接の加法定理

- 5 $\tan(\alpha + \beta) = \frac{\tan\alpha + \tan\beta}{1 - \tan\alpha \tan\beta}$
- 6 $\tan(\alpha - \beta) = \frac{\tan\alpha - \tan\beta}{1 + \tan\alpha \tan\beta}$

[3] 2直線のなす角

直線 $y = mx$ と x 軸の正の向きとのなす角を θ とすると $\tan\theta = m$

[参考] 一般に、交わる2直線 $y = m_1x + n_1$, $y = m_2x + n_2$ が垂直でないとき、そのな

す鋭角を θ とすると $\tan\theta = \left| \frac{m_1 - m_2}{1 + m_1m_2} \right|$

[4] 加法定理と点の回転 [研究]

点 $P(a, b)$ を、原点 O を中心として θ だけ回転した位置にある点 $Q(x, y)$ について、

$OP = r$, 動径 OP と x 軸の正の向きとのなす角を α とすると

$$x = r\cos(\alpha + \theta) = r\cos\alpha \cos\theta - r\sin\alpha \sin\theta = a\cos\theta - b\sin\theta$$

$$y = r\sin(\alpha + \theta) = r\sin\alpha \cos\theta + r\cos\alpha \sin\theta = b\cos\theta + a\sin\theta$$

2 6 加法定理の応用

[1] 2倍角の公式

- 1 $\sin 2\alpha = 2\sin\alpha \cos\alpha$
- 2 $\cos 2\alpha = \cos^2\alpha - \sin^2\alpha = 1 - 2\sin^2\alpha = 2\cos^2\alpha - 1$
- 3 $\tan 2\alpha = \frac{2\tan\alpha}{1 - \tan^2\alpha}$

[参考] 3倍角の公式

- 1 $\sin 3\alpha = 3\sin\alpha - 4\sin^3\alpha$
- 2 $\cos 3\alpha = -3\cos\alpha + 4\cos^3\alpha$

[2] 半角の公式

- 1 $\sin^2\frac{\alpha}{2} = \frac{1 - \cos\alpha}{2}$
- 2 $\cos^2\frac{\alpha}{2} = \frac{1 + \cos\alpha}{2}$
- 3 $\tan^2\frac{\alpha}{2} = \frac{1 - \cos\alpha}{1 + \cos\alpha}$

[3] 三角関数の合成

$$a\sin\theta + b\cos\theta = \sqrt{a^2 + b^2} \sin(\theta + \alpha)$$

$$\text{ただし } \cos\alpha = \frac{a}{\sqrt{a^2 + b^2}}, \sin\alpha = \frac{b}{\sqrt{a^2 + b^2}}$$

[発展] 和と積の公式

加法定理から、次の公式が導かれる。

(積 → 和)

- 1 $\sin\alpha \cos\beta = \frac{1}{2}\{\sin(\alpha + \beta) + \sin(\alpha - \beta)\}$
- 2 $\cos\alpha \sin\beta = \frac{1}{2}\{\sin(\alpha + \beta) - \sin(\alpha - \beta)\}$
- 3 $\cos\alpha \cos\beta = \frac{1}{2}\{\cos(\alpha + \beta) + \cos(\alpha - \beta)\}$
- 4 $\sin\alpha \sin\beta = -\frac{1}{2}\{\cos(\alpha + \beta) - \cos(\alpha - \beta)\}$

(和 → 積)

- 5 $\sin A + \sin B = 2\sin\frac{A+B}{2} \cos\frac{A-B}{2}$
- 6 $\sin A - \sin B = 2\cos\frac{A+B}{2} \sin\frac{A-B}{2}$
- 7 $\cos A + \cos B = 2\cos\frac{A+B}{2} \cos\frac{A-B}{2}$
- 8 $\cos A - \cos B = -2\sin\frac{A+B}{2} \sin\frac{A-B}{2}$